

新型コロナウイルス関連海洋安全保障情報（2020年7月11日～7月20日）
（2020年8月3日現在）

本項は「海洋情報 FROM THE OCEANS」において収集・発信している海洋安全保障情報の中でも、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関連した海洋安全保障情報を取りまとめたものである。本項は公表された情報を海洋政策研究所が要約して作成したものであり、情報源を括弧書きで表記するとともにインターネットによるリンク先を掲載した。また、リンク先 URL はいずれも当該記事参照時点でアクセス可能なものである。

(1) 7月20日 Disturbing Changes in South China Sea (China US Focus, July 20, 2020)
(<https://www.chinausfocus.com/peace-security/disturbing-changes-in-south-china-sea>)
China US Focus, July 20, 2020

Wu Shicun（呉士存）

7月20日付の在香港国際関係ウェブサイト China US Focus は中国南海研究院 Wu Shicun（呉士存）院長の“Disturbing Changes in South China Sea”と題する論説を掲載し、ここで呉院長は米国の南シナ海問題への対応について、2度にわたって実施された空母2隻態勢での演習に言及しつつ、COVID-19の影響で弱体化したとみなされている米国が南シナ海で攻勢的な姿勢を採ることは基本的に同地域の安定に資するものではないと論じている。

（抄訳掲載予定）

(2) 7月18日 The cold war between U.S. and China just got a lot hotter (CNBC, July 18, 2020)
(<https://www.cnbc.com/2020/07/18/op-ed-the-cold-war-between-us-and-china-just-got-a-lot-hotter.html>)

CNBC, July 18, 2020

Frederick Kempe

7月18日付の米ニュース専門放送局 CNBC のウェブサイトは米シンクタンク The Atlantic Council 会長 Frederick Kempe の“The cold war between U.S. and China just got a lot hotter”と題する論説を掲載し、ここで Kempe は米中対立が新しい冷戦とみなされるべき局面に入ったと論ずる中で、中国は国際社会が COVID-19 の対応に追われている間隙を突いて南シナ海や香港、台湾の問題、少数民族のイスラム教徒に対する人権の問題など、強権的な姿勢を強めていることを指摘している。

(3) 7月17日 Are US-Japan relations on the rocks? (The Hill, July 17, 2020)
(<https://thehill.com/opinion/international/507880-are-us-japanese-relations-on-the-roc>)

ks)

The Hill, July 17, 2020

Michael J. Green, Jeffrey W. Hornung

7月17日付の米政治専門誌 The Hill 電子版は米シンクタンク The Center for Strategic and International Studies, Asia and Japan Chair 上級副部長 Michael J. Green、米シンクタンク RAND Corporation 政治学研究者 Jeffrey W. Hornung の “Are US-Japan relations on the rocks?” と題する論説を掲載し、ここで Green らは日米同盟の信頼関係が揺らいでいるとの見方は必ずしも正しくないと論ずる中で、そのような疑念が生ずる要因の一つとしては日米とも COVID-19 対応に対する批判が政権基盤に影響を与えていることを指摘している。

(抄訳掲載予定)

(4) 7月17日 What American Century? (Foreign Policy, July 17, 2020)

(<https://foreignpolicy.com/2020/07/17/no-american-century-demise/?utm>)

Foreign Policy, July 17, 2020

Jeremi Suri

7月17日付の米シンクタンク Foreign Policy Research Institute のウェブサイトは米 The University of Texas at Austin 歴史学部教授 Jeremi Suri の “What American Century?” と題する論説を掲載し、ここで Suri は「アメリカの世紀の終焉」という問題の本質は米国が既存の国際協調態勢を否定しようとしていることにあると論じる中で、COVID-19 はまさに国際協調をもって対応すべき案件の一つであると指摘している。

(5) 7月16日 Interview with Roger Cliff - U.S. Strategy at an Inflection Point: Challenges to U.S. Interests in the Indo-Pacific (The National Bureau of Asian Research, July 16, 2020)

(<https://www.nbr.org/publication/u-s-strategy-at-an-inflection-point-challenges-to-u-s-interests-in-the-indo-pacific/>)

The National Bureau of Asian Research, July 16, 2020

Roger Cliff (インタビュー記事)

7月16日付の米国際問題 NPO、National Bureau of Asian Research (NBR) のウェブサイトはインド太平洋問題の専門家である本年6月に NBR から特別報告書 “A New U.S. Strategy for the Indo-Pacific” を発出した Roger Cliff に対するインタビュー記事を掲載し、ここで Cliff は米国にとってのインド太平洋地域の重要性を論ずる中で、COVID-19 の影響があっても米国はこの地域に対するコミットメントを弱体化させることはない論じている。

(6) 7月15日 The US is taking on Beijing over the South China Sea, but Asean remains cautious (South China Morning Post, July 15, 2020)

(<https://www.scmp.com/week-asia/politics/article/3093183/us-taking-beijing-over-south-china-sea-asean-remains-cautious>)

South China Morning Post, July 15, 2020

Maria Siow (署名記事)

7月15日付の香港日刊英字紙 South China Morning Post 電子版は同紙中国特派員兼アナリスト Maria Siow の “The US is taking on Beijing over the South China Sea, but Asean remains cautious” と題する署名記事を掲載し、ここで Siow は南シナ海問題に関する専門家の論考を引用しつつ、米国が中国に対する攻勢を強めているが、特に COVID-19 の影響下、経済面で依然として中国に依存せざるを得ない ASEAN 諸国は必ずしもこうした動きに追従するとは限らず、交渉中の「南シナ海行動規範 (COC)」にも影響を与えるかもしれないと論じている。

(7) 7月15日 Xi's call to Singapore: a subtle 'reminder' about the South China Sea? (South China Morning Post, July 15, 2020)

(<https://www.scmp.com/week-asia/politics/article/3093313/xis-call-singapore-subtle-reminder-about-south-china-sea>)

South China Morning Post, July 15, 2020

Dewey Sim (署名記事)

7月15日付の香港日刊英字紙 South China Morning Post 電子版は同紙アジア担当デスク Dewey Sim の “Xi's call to Singapore: a subtle 'reminder' about the South China Sea?” と題する署名記事を掲載し、ここで Sim は7月14日に実施された習近平中国国家主席とシンガポール Lee Hsien Loong 首相との電話会談について論評し、この中では COVID-19 の対応における二国間協力の推進などの項目もあるものの、中国の真の目的はシンガポールと米国との関係に対する婉曲な牽制であると論じている。

(8) 7月14日 Hedging or Balancing? Australia and New Zealand's Differing China Strategies (The Diplomat, July 14, 2020)

(<https://thediplomat.com/2020/07/hedging-or-balancing-australia-and-new-zealands-differing-china-strategies/>)

The Diplomat, July 14, 2020

Lai-Ha Chan

7月15日付のデジタル誌 The Diplomat は豪 University of Technology Sydney, the Social and Political Sciences Program, Faculty of Arts and Social Sciences 上級講師 Lai-Ha Chan の “Hedging or Balancing? Australia and New Zealand's Differing China

Strategies” と題する論説を掲載し、ここで Chan は ANZAC 構成国であるオーストラリアとニュージーランドの対中国の姿勢の相違について論ずる中で、オーストラリアが COVID-19 のパンデミックとの関係について直接的な説明を求めたことから中国との関係が悪化しているのに対し、ニュージーランドは中国への懸念を共有しつつも直接的な対峙という形ではなく、独自の立場を採っていると論じている。

(9) 7月13日 A diplomatic step-up to match our military step-up (The Interpreter, July 13, 2020)

(<https://www.lowyinstitute.org/the-interpreter/diplomatic-step-match-our-military-step>)

The Interpreter, July 13, 2020

Dave Sharma

7月13日付の豪シンクタンク Lowy Institute のウェブサイト The Interpreter は豪連邦議会議員 Dave Sharma の “A diplomatic step-up to match our military step-up” と題する論説を掲載し、ここで Sharma は同国の国防、安全保障戦略について論ずる中で防衛と外交への投資はバランスを取るべきと主張しつつ、COVID-19 パンデミックの打撃を受けた国際社会の正常化には特に多国間の協力関係が重要であると論じている。

(了)